

中国車、次に狙うは日本の「軽」！ ～軽自動車市場への参入にみる戦略の変化～

BYDが日本の軽自動車市場に参入

BYDは2026年7月、日本独自の軽自動車規格に合わせて専用に開発した電気自動車（EV）「RACCO（ラッコ）」を発売しました（図表1）。RACCOは、広い室内空間やスライドドアを備えた「スーパーハイトワゴン型」を採用するなど、日本の消費者ニーズを強く意識した商品で、月販2,000台の高い目標を打ち出しています。これまで低価格を武器に成長してきたBYDですが、日本の新車市場の4割を占める軽自動車市場でどこまで販売を伸ばせるか、非常に注目されています。なお、こうした中国メーカーの日本参入はBYDにとどまりません。広州汽車集団はEVブランド「AION」、奇瑞汽車はオートバックスセブン等と連携してEVの投入を検討しています。

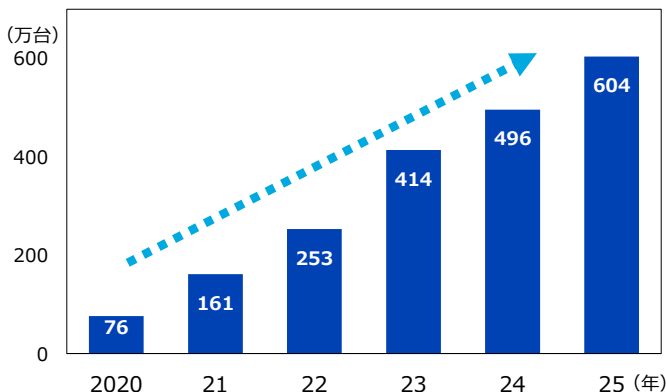
加速する中国車の海外展開

中国では、EVを中心に自動車の生産能力が積み上がる一方、足元では国内需要が伸び悩んでいます。このため、メーカー間の競争は一段と厳しさを増し、各社は新たな成長余地を海外市場に求めています。

ちなみに、2025年の乗用車輸出台数は600万台（日本は376万台）に達し、豪州やASEANなど日本メーカーが長年に亘り高いシェアを維持してきた市場においても、中国メーカーの存在感が急速に高まっています（図表2・3）。

最近では、自国で販売する車をそのままの型で輸出するのではなく、RACCOのように各国・各地域の規格や消費者ニーズを踏まえた商品展開を強化するなど、海外戦略をよりきめ細かなものへと進化させています。今後、中国車の海外展開はさらに拡大するとみられ、世界における日本車との競争は一段と激しくなるとみられます。

図表2 中国の乗用車輸出台数の推移



(資料) マークラインズ資料より当部作成

図表1 RACCOと日本メーカー軽EVの比較

	RACCO (BYD)	サクラS (日産)	N-ONEe (ホンダ)	eスカイ (スズキ)
価格	214万円	244万円	269万円	212万円
補助金額	15万円	58万円	58万円	58万円
補助金 適用後価格	199万円	186万円	211万円	154万円
航続距離	210Km	180Km	295Km	310Km

(注1) 最廉価グレードの数値、1万円未満は切り捨て

(注2) 補助金額は車両性能、メーカーの充電整備への貢献、部品の供給安定性等を総合的に評価して決定するためメーカー・車両で異なる

(注3) スズキは競争激化する軽市場に「eスカイ」を投入（11/16販売）予定
(資料) 各メーカーHPより、ひろぎんHD経済産業調査部（以下、当部）作成

図表3 中国・日本メーカーの新車販売台数シェア

地域	国	2015年①	2025年②	増減(②-①)
世界	中国	14.5%	29.9%	+15.4%
	日本	29.3%	24.1%	▲5.2%
豪州	中国	0.6%	17.6%	+17.0%
	日本	52.2%	46.2%	▲6.0%
ASEAN	中国	0.6%	11.6%	+11.0%
	日本	75.1%	56.7%	▲18.4%
中南米	中国	1.9%	11.3%	+9.4%
	日本	19.1%	18.2%	▲0.9%

(注) トラック・バスを含む

(資料) マークラインズ資料より当部作成

品質向上のため
アンケートにご協力ください。



PCの方は
[コチラを
クリック](#)

- ◆ 本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ◆ 本資料は、信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。また、本資料に記載された内容等は作成時点のものであり、今後予告なく修正、変更されることがあります。資料のご利用に関しては、お客さまご自身の責任において判断なされますよう、お願い申し上げます。
- ◆ 本資料に関連して生じた一切の損害については、責任を負いません。その他、専門的知識に係る問題については、必ず弁護士、税理士、公認会計士等の専門家に相談のうえ、ご確認ください。
- ◆ 本資料の一部または全部を、当社の事前の了承なく複製または転送等を行うことを禁じます。
- ◆ 本件に関するご照会は、ひろぎんHD経済産業調査部 担当：河野（TEL082-247-4958）までお願いします。